

# 高校魅力化コンソーシアムモデル構築支援事業

## 事業説明

---

- (1) 高校魅力化コンソーシアムモデル構築支援事業  
開始までの経緯
- (2) 高校魅力化コンソーシアムとは
- (3) コーディネーターの役割 ～3つの機能～
- (4) 高校魅力化コンソーシアムモデルの種類

# 1 高校魅力化コンソーシアムモデル構築支援事業開始までの経緯

R6.7  
～  
R7.8

県立高等学校あり方検討会

## コンセプト

地域とともに「高校のあり方」について考え、より魅力ある学校を創り続けるために、地域と一体の協働体制を構築する。そのことが、ひいては地方創生にもつながる。

R6.10  
～  
R7.2

地域意見交換会

- ・ 県立高校が所在する県内25市町村、28カ所で開催。
- ・ 地域とともに県立高校の未来を考える。
- ・ **県立高校と地域が一体となった協働体制への期待**

R7  
～  
R8

## 高校魅力化コンソーシアムモデル構築支援事業の実施

- ・ 2年間で高校魅力化コンソーシアムモデルを構築。
- ・ 他地域への横展開を見据えたコンソーシアム構築に関する経験値の蓄積
- ・ **全国的な知見を有する一般財団法人 地域・教育魅力化プラットフォームと協働し、各コンソーシアムの活動を支援。**

R9  
～

**コンソーシアムモデルの発展・継続。他地域への横展開。**

## 2 高校魅力化コンソーシアムとは

### 1 目的

多様な主体（地域の住民や市町村、小・中学校、地元企業等）と高校が協働し、地域の子どもたちにどのように育ててほしいのかという目標やビジョンを策定するとともに、その実現のための魅力ある学校づくりに取り組む。

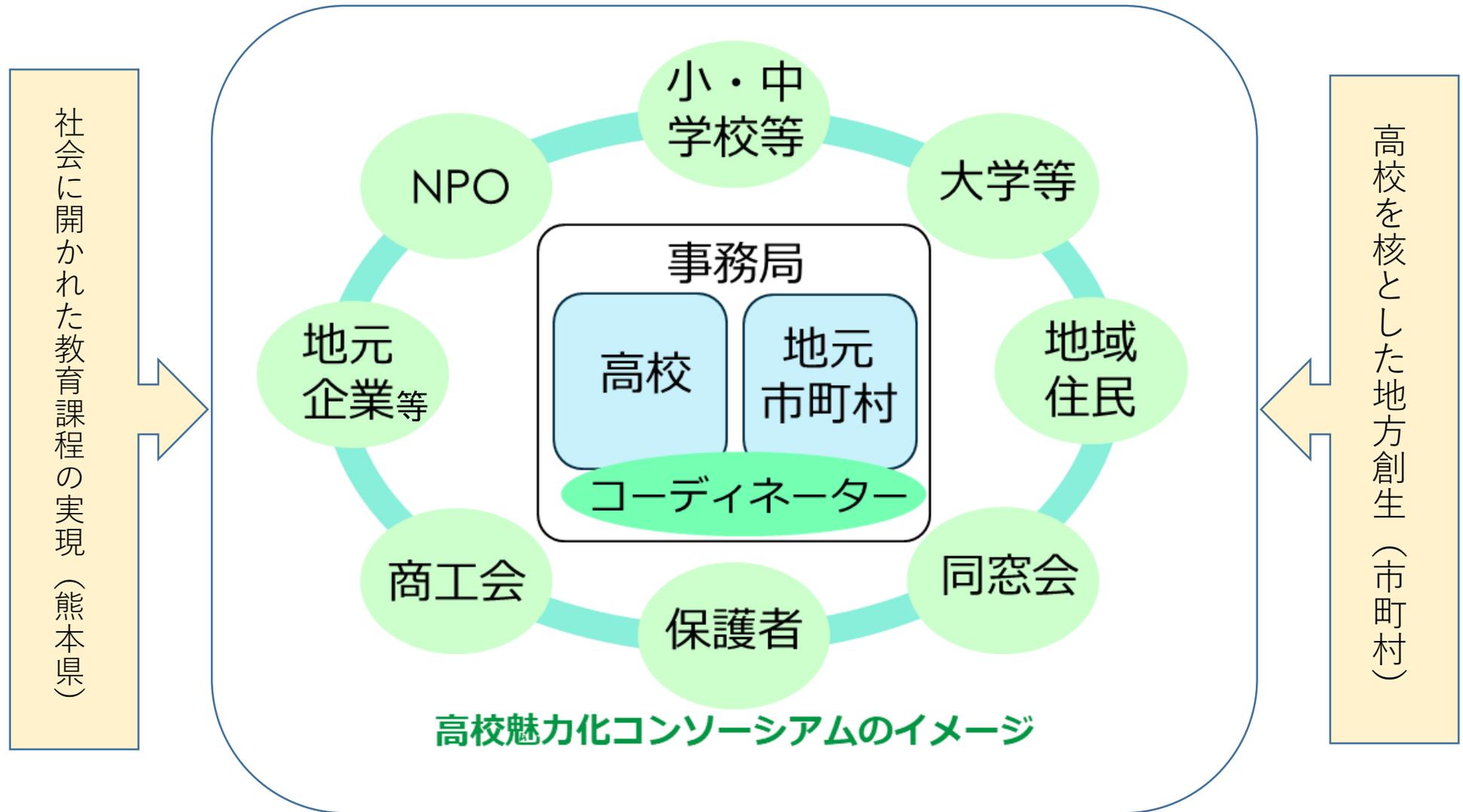
### 2 概要

高校と地元市町村が密接に連携し、地域の住民や、小・中学校、地元企業等の関係団体と構成する協働体制

### 3 期待される効果

- ①ビジョンの共有が図られ、目指すべき方向が明確化
- ②属人的ではなく、組織的で、持続可能な高校と地域との協働体制構築
- ③地域課題の共有、地域資源の有効活用による高校の魅力化
- ④【高校側の視点】 社会に開かれた教育課程の実現・外部連携の充実・外部資源の獲得
- ⑤【市町村側の視点】 地域が求める人材の育成・高校を核とした地方創生

## 2 高校魅力化コンソーシアムとは



## 3 コーディネーターの役割 ～3つの機能～

### 高校におけるコーディネート機能

- ・ 地域社会と関わる教育活動の企画・運営・支援
- ・ 地域側との連絡調整、情報提供
- ・ 高校への地域資源（人・もの・こと・課題）の活用

### 地域におけるコーディネート機能

- ・ 地域資源（人・もの・こと・課題）の掘り起し
- ・ 高校側との連絡調整、情報提供
- ・ 学校外で高校生を含む活動の企画・運営・支援

### 協働体制におけるコーディネート機能

- ・ 高校と市町村を密接につなぐ（思いの共有・連絡調整）
- ・ 組織体制の構築・運営（ビジョン・計画づくり、事業や会議の運営等）
- ・ 外部資源の獲得（寄附、ふるさと納税等）

## 4 高校魅力化コンソーシアムモデルの種類

	モデル	市町村	高校
1	一市町一校モデル	山都町	矢部高校
		あさぎり町	南稜高校
		御船町	御船高校
		天草市	牛深高校
2	一市複数校モデル	玉名市	北稜高校 玉名高校 玉名工業高校
3	複数町一校モデル	小国町 南小国町	小国高校

他県の各モデル事例を参考に、県内でも横展開を目指す